

対話イン関東複数大学2016 リスク・コミュニケーション

リスクおよびリスク・コミュニケーションを学ぶ学生に

1. ピーター・バーンスタイン著、青山護訳「リスクー神々への反逆」(上・下)(2001, 日経ビジネス文庫)
リスク(risk)とはrisicare(イタリア語) = 勇気を持って試みる
2. 神里達博著「食品リスク」(2005, 弘文堂)
科学的な意味での「リスク論」は問題の半分しか解決しない
3. バルーク・フィッシュホフ & ジョン・カドバリー著、中谷内一也訳
「リスクー不確実性の中での意思決定」(2015, 丸善出版)
人は大まかな選択方法として良質なヒューリスティックを持つ
4. 小林傳司著「トランス・サイエンスの時代-科学技術と社会をつなぐ」(2004, NTT出版)
トランス・サイエンス(ポスト・ノーマル・サイエンス)領域の科学技術政策に求められる政治決定

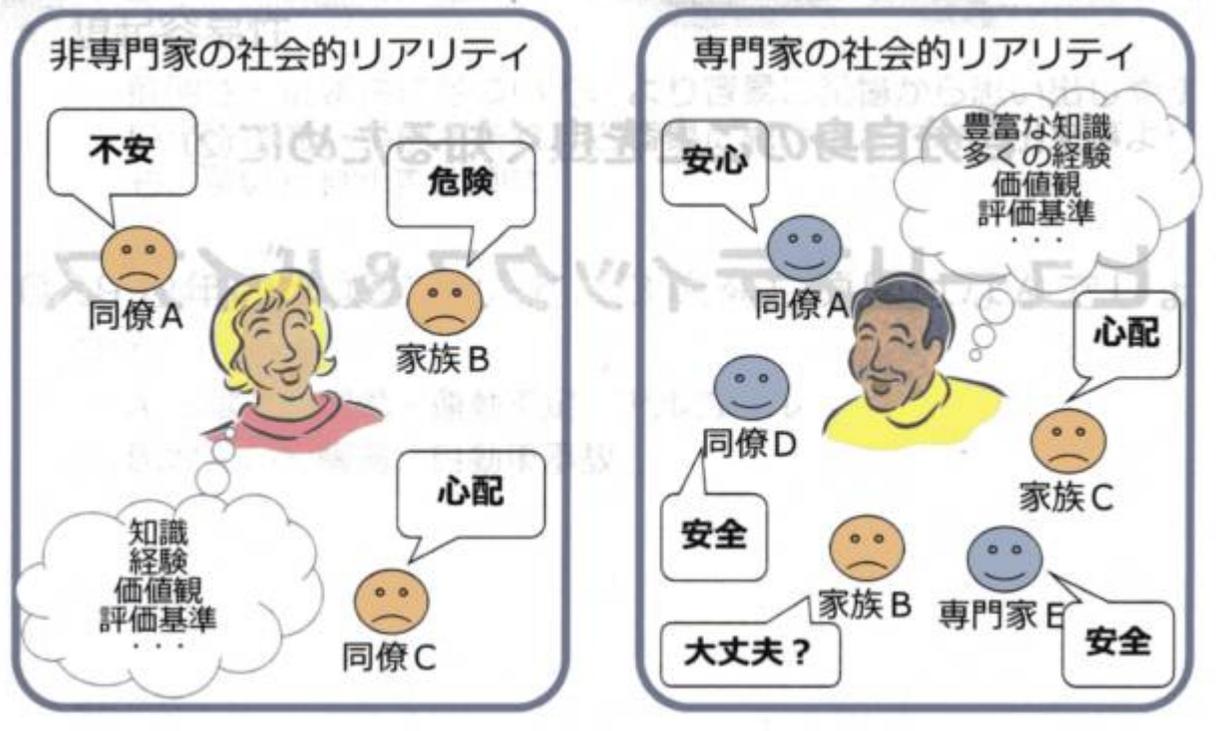
動力炉・核燃料開発事業団(現日本原子力研究開発機構)
元理事・環境技術開発推進本部長
坪谷隆夫

リスク認知

● 専門家と非専門家との認知ギャップ



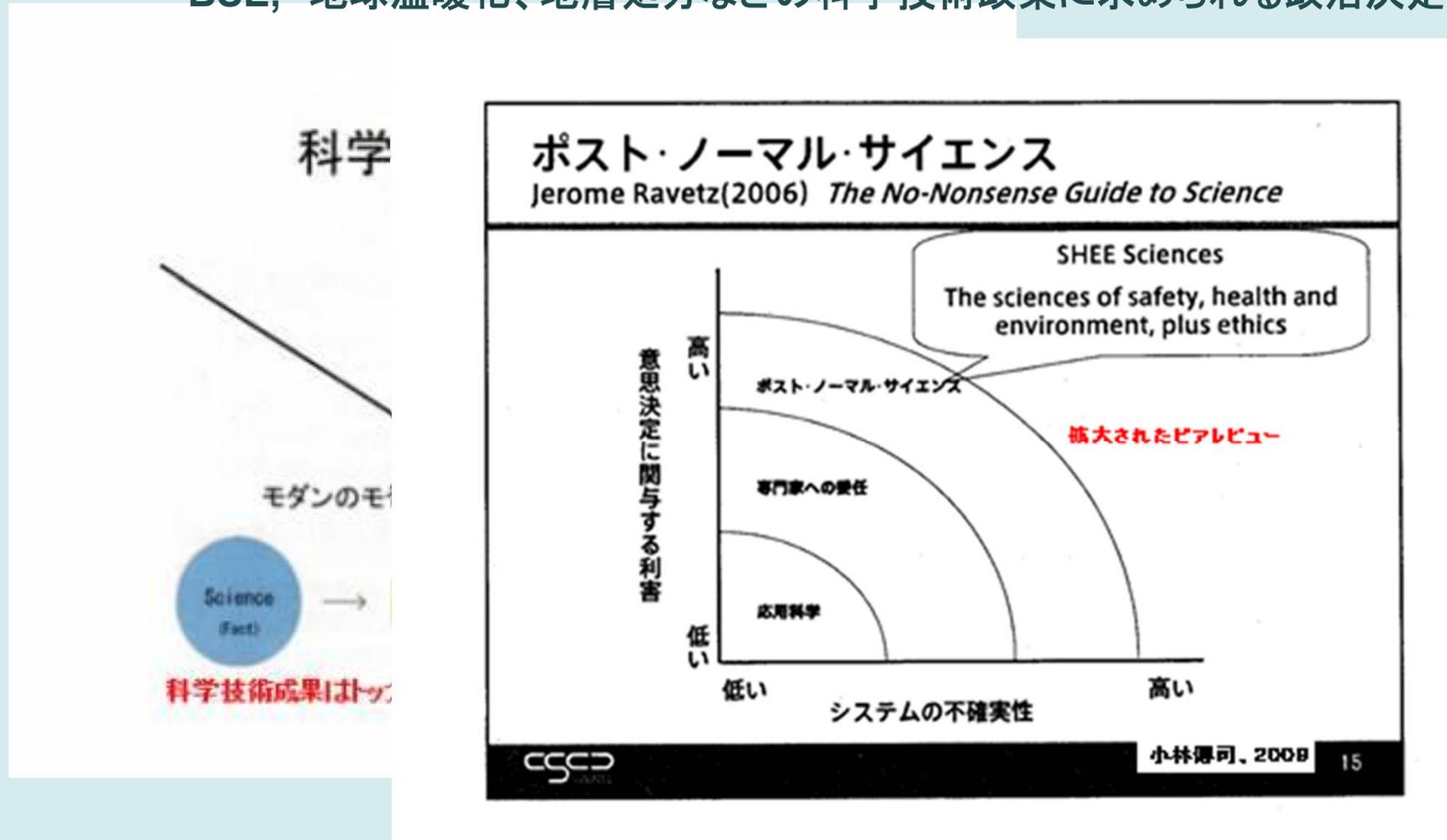
小杉素子, 土屋智子 (2002), 科学技



専門家
は
自信過剰
中谷内2015

トランス・サイエンス(ポスト・ノーマル・サイエンス)領域を 認識したリスク・コミュニケーション

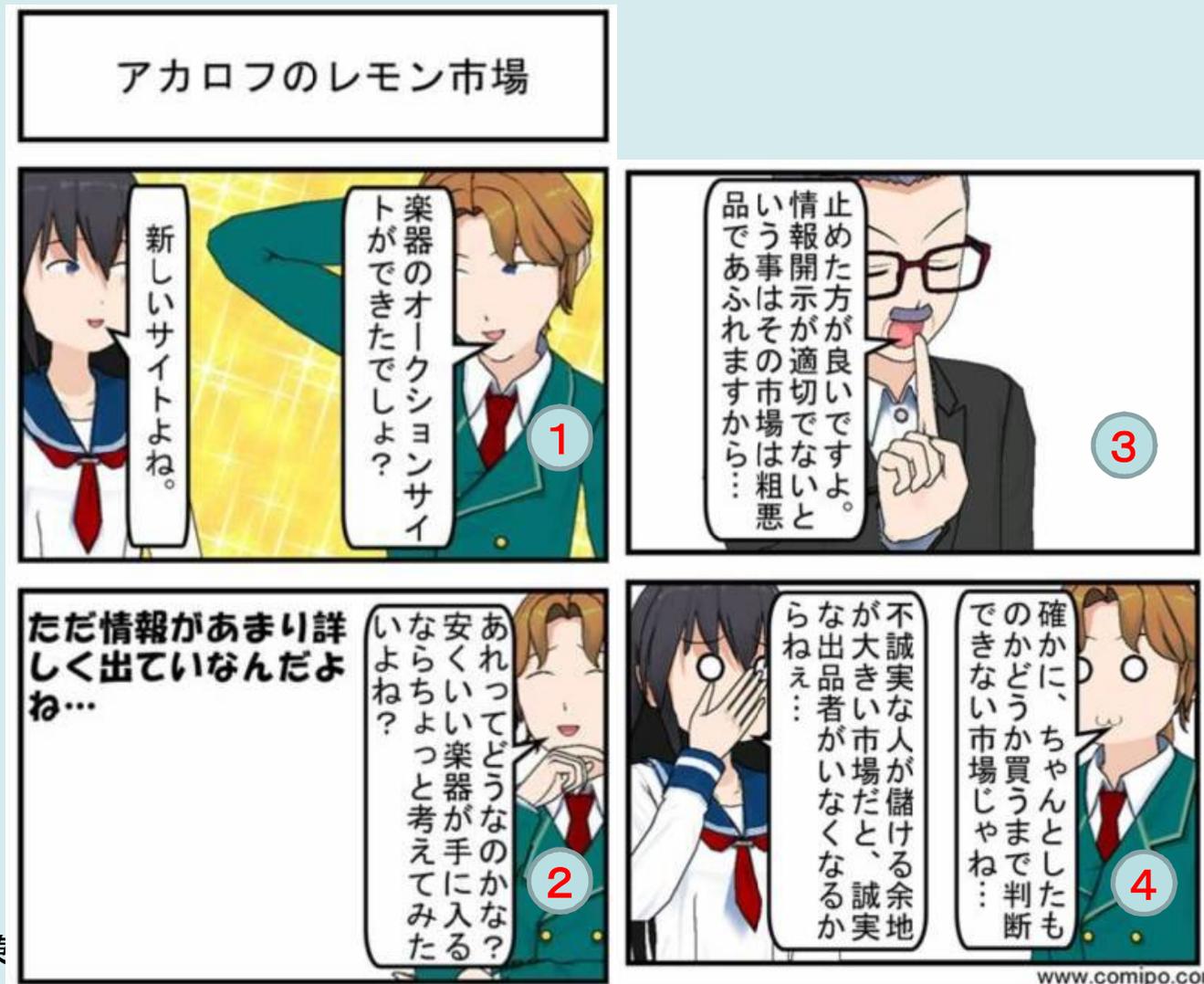
BSE, 地球温暖化、地層処分などの科学技術政策に求められる政治決定



政策の意志決定を専門家に委ねると専門家には責任が重すぎる領域: システムの不確実性が高く、人々の利害が高い科学技術: SHEE Sciences (安全、健康、環境、倫理関連技術) (小林傳司、東京大学・原子力社会論ワークショップ「市民参加と高度科学技術」(2009))

情報の非対称性を認識したリスク・コミュニケーション

レモン市場、中古車販売、株等金融商品、地層処分技術、先進医療など



リスク・コミュニケーションの変遷

「決定・通知・説得」型 (DAD, decide, announce and defend model)

リスクの受け手: 専門家にお任せ

リスクの送り手: 啓蒙 (=コミュニケーションでも正しい科学知識の提供)



リスクの受け手: リスクを知る権利 (市民運動、環境運動)

リスクの送り手: 知らせる努力



2000年以降 (契機: 英国におけるBSE問題)

「参画・相互影響・協力」型 (engage, interact and co-operate model)

= パートナーシップ・アプローチ (市民参加から市民参画へ)

地層処分政策の見直し勧告(OECD/NEA)

意志決定プロセスの見直し

- 「決定・通知・説得」型 (decide, announce and defend model)
- 「参画・相互作用・協力」型 (engage, interact and co-operate model)

- 最適な技術を訴求とする伝統的なアプローチから
技術、社会の支持、および分配面の公平を重視するアプローチの実現
- 技術的な保証に加えて参加型意志決定を念頭においたプロセスが重要
- 段階的 (step-wise) な意志決定を可能にする概念の導入
- 社会意志に基づく修正が可能な (reversible) 処分計画の開発
 - ✓ 意志決定の変更への柔軟な対応
 - ✓ 埋設した廃棄物の回収可能性への対応

OECD/NEA(2004)、Stepwise Approach to Decision Making for Long-term Radioactive Waste Management.

社会的なフレーミング (social framing)

新しいリスク政策の決定モデル



神里達博、日本原子力学会「放射性廃棄物処分の学際的評価」研究専門委員会(2012)